

発行日	令和5年9月29日
発行元	災害対策課
所属長	森本 仁信
電話	06-6489-6165

防災対策情報便

防災



令和5年9月号

1 夏から秋に多発 竜巻に注意しましょう

竜巻は、季節を問わず全国各地で発生しています。詳しい発生メカニズムは解明されていませんが、低気圧や台風の接近時に大気の状態が不安定になり、南から温かく湿った空気が流入すると竜巻が発生しやすくなる傾向があります。

前兆としては、次のようなものがあります。①青空から一転して、真っ黒な雲が近づき、周囲が急に暗くなる。②雷鳴が聞こえたり、雷光がみえたりする。③急に冷たい風が吹いてくる。④大粒の雨や「ひょう」が降り出すなどです。



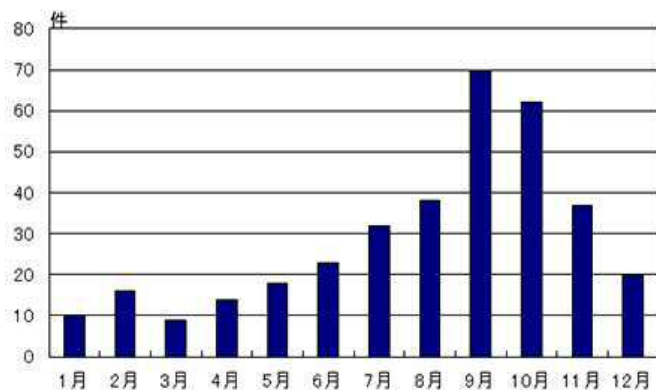
【屋内にいる場合】

- 窓を開けない
- 窓から離れる
- カーテンを引く
- 雨戸・シャッターをしめる
- 地下室や建物の最下階に移動する
- 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動する
- 部屋の隅・ドア・外壁から離れる
- 頑丈な机の下に入り、両腕で頭と首を守る

【屋外にいる場合】

- 近くの頑丈な建物に避難する
- 橋や陸橋の下に行かない
- 飛来物に注意する

(出典)気象庁



竜巻の月別発生確認数

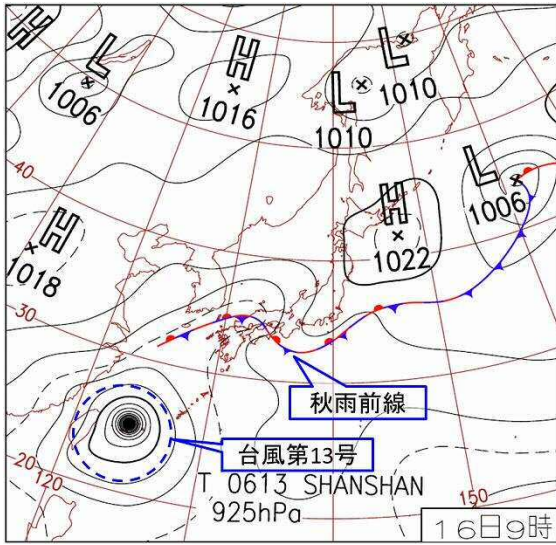


平成11年9月24日豊橋市で発生した竜巻(愛知県豊橋市 撮影)

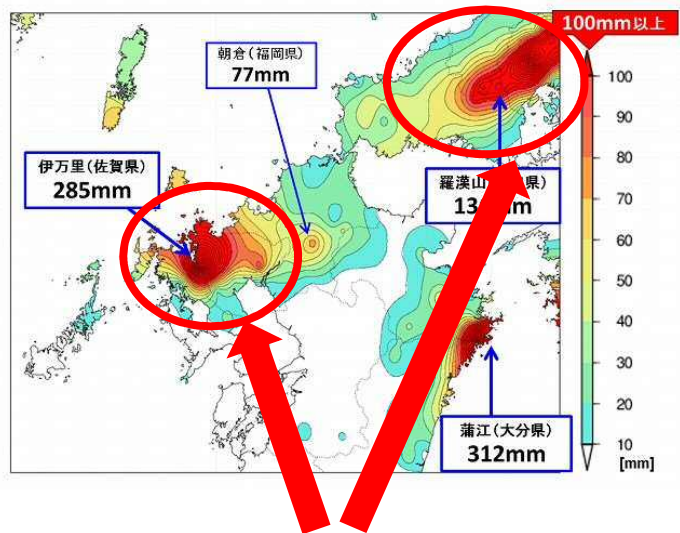
2 台風と秋雨前線の組み合わせに要注意！

秋雨前線は、夏から秋への季節の移行期に、日本付近に出現して秋雨(長雨)をもたらす停滞前線をいいます。また、停滞前線とは、ほぼ同じ位置にとどまっている前線をいいます。通常、9月の上・中旬頃から10月の上・中旬頃にかけて、日本付近を覆っていた太平洋高気圧の張り出しが弱まり、冷涼な空気を伴う高気圧が日本海や北日本に現れることによって、秋雨前線が形成されます。

一般に秋雨前線が現れる時期は、台風シーズンと重なり、接近時には台風の暖かく湿った風が秋雨前線を刺激し、これにより前線の活動が活発化して大雨をもたらすことがあります。



出典:気象庁



台風が秋雨前線を刺激して、激しい雨をもたらす事例

3 防災マップ作成のための街歩きをしました！！

9月16日(土)に開明自主防災会で、防災マップ作成のための街歩きを行いました。当日は、30度を超える非常に暑い中での街歩きでしたが、1時間程度かけて、①災害発生時危険な場所②防火や防災に関するもの③災害後に役立つものを地図上にマーキングし、詳細を地図に落とし込んでいきました。

普段の生活ではなかなか気づかないような危険な場所があったり、一方でAEDなどの災害時にも役立つようなものが意外と身近にあることを肌で感じたとおっしゃっていました。

市民の皆様も、是非ご自身の家の周りや通勤・通学路、また避難経路を防災の視点で歩いてみてはいかがでしょうか。



防災マップ作成の様子

4 防災マップ作成と訓練を実施しました！！

開明自主防災会の街歩きと同日に武庫第 11 自主防災会でも防災マップ作りのための街歩きと、応急給水栓操作訓練と要配慮者への水の搬送を行いました。

地域住民だけでなく、**兵庫県立武庫荘総合高校の生徒**やPTAの方々も参加して、街歩きをしながら地域の危険な場所や災害時に役立つようなものを確認しました。

また、**応急給水拠点**のように災害時に住民が集まる場所に**掲示板を設置**することでスマートフォンなどのデジタル機器が使用できない状況でも、**アナログの手段で情報伝達を行う仕組み**を紹介しました。



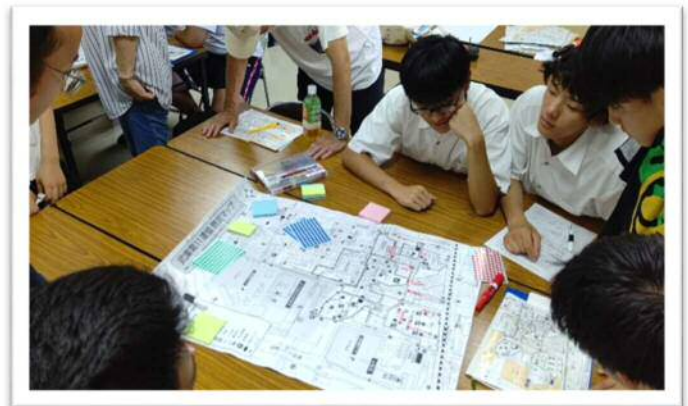
応急給水拠点操作訓練の様子



防災マップ作りの様子(1)



掲示板を用いた情報伝達の様子



防災マップ作りの様子(2)



尼崎市内には、災害などにより断水した場合、飲み水としての水道水を確保するために**応急給水拠点が59ヶ所**あります。
(令和5年3月末時点)
災害が起こった際は、被害状況に応じて拠点を開設しますが、まずは日頃からご自身で水の確保は行いましょう。

▼一人が必要な水の量
1日3リットル×3日分(最低)

出典:公営企業局HP



5 防災の日～関東大震災の教訓を忘れない～

1923年(大正12年)9月1日11時58分、神奈川県西部の北緯35度19.8分、東経139度08.1分、深さ23キロメートルを震源とするマグニチュード7.9の地震(大正関東地震)が発生しました。

この地震により、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県で震度6を観測したほか、北海道道南から中国・四国地方にかけての広い範囲で震度5から震度1を観測しました。

この地震では、発生が**昼食の時間と重なった事から、多くの火災が起きて被害が拡大**しました。また、津波、土砂災害なども発生し、**死者・行方不明者は10万5千人余**(理科年表より)にのぼりました。この地震によって生じた災害は「関東大震災」と呼ばれています。

関東大震災に限らず、東日本大震災でも多くの地点で同時多発的に火災が発生し、特に住宅密集地では大規模な火災の危険性が高くなります。

近年の大規模地震発生時における火災の多くは電気に起因する火災となっています。



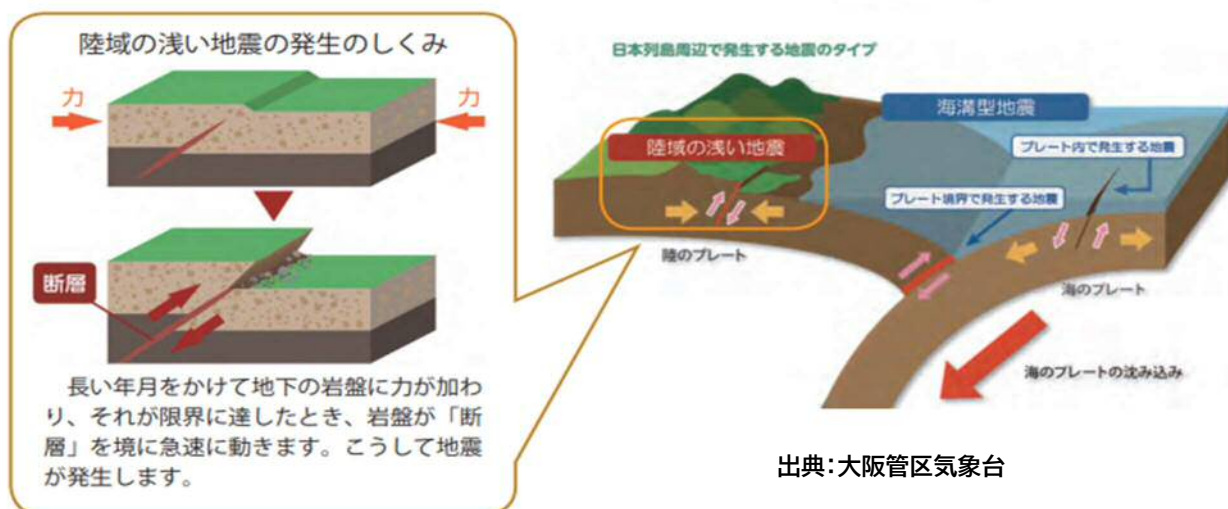
出典:総務省消防庁

- 住まいの耐震性を確保する。
- 家具等の転倒防止対策(固定)を行う。
- 感震ブレーカーを設置する。
- ストーブ等の暖房機器の周辺は整理整頓し、可燃物を近くに置かない。
- 住宅用消火器等を設置し、使用方法について確認する。
- 住宅用火災警報器(連動型住宅用火災警報器などの付加的な機能を併せ持つ機器を推奨)を設置する。

【海溝型地震と内陸型地震の違い】

関東大震災や東日本大震災は、**海溝型の地震**と言われていて、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込みひずみが限界に達すると大陸プレートが跳ね上がり発生する地震を指します。特徴としては、①揺れる時間が長い(1分以上が多い)、②津波の危険性が高い、③数十年から100年程度の間隔で発生するなどがあります。

一方で、阪神・淡路大震災は**内陸(直下)型地震**と言われていて、陸地の地下で活断層がずれて起こる地震を指します。特徴としては、①揺れる時間が短い(数秒から数十秒が多い)、②断層の近くでは揺れが激しい、③千年から一万年程度の間隔で発生するなどがあります。



出典:大阪管区気象台